

## 前期日程

令和3年度入学試験問題（前期日程）

# 総合問題

芸術地域デザイン学部  
芸術地域デザイン学科  
地域デザインコース

### — 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 受験票、筆記用具〔鉛筆（シャープペンシルを含む。）、消しゴム、鉛筆削り〕、眼鏡及び時計以外の物は、机に出してはならない。
- 3 問題冊子のほかに解答紙2枚と下書き用紙2枚（白紙1枚と原稿用紙1枚）がある。
- 4 解答は横書きとする。
- 5 解答紙を提出すること。
- 6 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

日本や世界の神話伝承や歴史記録は、その解釈をめぐる国内外情勢と近代ナショナリズムの強い影響を受けてきました。美術作品も例外ではありません。近年、記紀万葉に対する人々の関心が高まるなかで、ヤマト政権の地方支配の由来を神話として語った出雲神話を読み直し、記紀そのものの持つ生き生きとした文学的魅力に注目する機運が高まっています。

以下の文章(日本語、英文)を読み、問1、問2に答えなさい。

端的に言えば、古事記のなかで、出雲神話と呼ばれるテーマを描いた近代美術作品例が極端に少ない。古事記のなかで出雲神話は、乱暴狼藉をはたらいて高天原を追われ、出雲に降り立ったスサノオのオロチ退治にはじまり、オオナムチ（後のオオクニヌシ）の成長譚、オオクニヌシの国造り、そして、オオクニヌシのアマテラスへの国譲りにいたる話にあたる。これは古事記神話の25パーセントを占めると三浦佑之氏も指摘しているが、それにもかかわらず出雲神話、特に出雲大社の祭神であるオオクニヌシについて描かれた作品がほとんどみあたらない。明治から昭和にかけて数多く描かれた記紀の主題を見てみると、皇室起源説を裏付ける最も有力な神であるアマテラス、人として最初の天皇である神武天皇、当時の帝国主義をのぞかせる、三韓征伐の象徴、神功皇后\*であることは既にのべた。この三者に続いて多く描かれたのが、ヤマサチビコの神話と、ヤマトタケルの物語である。ヤマサチビコは、ラブストーリーのはじまりであるトヨタマ姫との出会いが描かれ、ヤマトタケルは三種の神器の一つ、草薙剣で窮地を脱出する場面が描かれるのが主流ではあるが、クマソタケルを退治するために女装したヤマトタケルや、その妃であるオトタチバナ姫が身代わりに入水する場面など、取り上げられる場面が多彩なことが特徴だ。いずれも物語性が強い。通常出雲神話で唯一描かれているのはスサノオだけで、その主題も圧倒的にオロチ退治が選ばれている。しかしながら出雲神話のもう一人の主演、オオクニヌシについては、物語性の高い話が数多く記されているにもかかわらず、近代の美術作品としてはオオクニヌシの若い頃の姿を描いた青木繁の《大穴牟知命》\*がある程度で、これはほぼ例外的な作品だ。まるでオオクニヌシなどいなかったかのように作品が描かれていない。こうした主題の偏りは、まさに作家が国の正史とされた日本書紀をテキストに使っていたことをよく裏付けている。(中略)

《大穴牟知命》を描いた青木繁\*は、古事記を真正面から表現したほぼ唯一の作家ということだ。青木はそのみずみずしい天賦の才能を、神話を糧にして花開かせた。山梨俊夫氏はその作品について「個に裏打ちされた歴史画として画家自身の息遣いを伝えている」としているが、それは、(イ)国家のイデオロギーのためでなく、自己表現として古事記を表現しきった青木の非凡な才能を裏付ける言葉だ。青木はほかにも《黄泉比良坂》、《わだつみのいろこの宮》などの神話作品を描いているが、いずれもテーマにまつわる国家のイデオロギーなどを凌駕し、神話の世界を生き生きと伝えた名作として評価

することができる。

記紀を描いた作品は、どうしても近代国家のイデオロギーに翻弄され、プロパガンダ的な側面を避けて語るができないテーマだが、そのようなテーマでも、それを突き抜けた芸術性を放つ作品は生まれ、そしてそれを生み出す創造性を人は持っている。そのことを思い出させてくれる作品も確かに存在する。

近年、古事記を国史から開放した、あらたな古事記像に多くの研究者のみならず一般の関心も高く向けられているように思う。そのような中でこれからの美術は、古事記をどのようにとらえ、どのような作品が生み出されていくのだろうか。古事記という素材の持つ力と、作家の創造力の幸福な出会いと結晶を期待したい。

(出典：真住貴子「美術と古事記」『現代思想』第39巻第6号 5月臨時増刊号 2011年より)  
作問上の理由により、一部修正した。

\* 神功皇后 記紀で、仲哀天皇の皇后で応神天皇の母とされる。気長足姫尊（おきながたらしひめのみこと）。仲哀天皇没後、朝鮮半島の新羅を討ち百済、高句麗を帰服させた（「三韓征伐」とするが伝説色が濃い。佐賀や九州各地には神功皇后ゆかりの神話伝承が残っている。

\* 大穴牟知命（オオナムチノミコト） オオナムチ、オオクニヌシノカミ

\* 青木繁 1882-1911（明治 15-44） 洋画家。福岡県出身。東京美術学校卒。在学中の1903（明治 36）年《黄泉比良坂》ほかで白馬会賞受賞。《海の幸》、《わだつみのいろこの宮》で名を高めた。1907（明治 40）年以後九州を放浪。明治時代の浪漫的風潮を代表した。

\* 黄泉比良坂（ヨモツヒラサカ）古事記にでてくる、現世と黄泉との境にあるという坂。

Kojiki （古事記）

(□)The Kojiki is a Japanese classic based on oral traditions. It was compiled in 712. It relates myths, legends, and historical accounts centering around the imperial court, from the age of the gods until the reign of Empress Suiko\*. Shinto theology has developed largely through the interpretation of Kojiki mythology. The ceremonies, customs, taboos, magic practices, and divination practices of ancient Japan are described in great detail.

\* Empress Suiko 推古天皇 在位期間 593年～623年 \*reign 統治期間、治世

\* theology 神学、神学体系 \*mythology 神話、神話体系

Ōkuninushi no kami （大国主神）

Great Land Possessor. Also known by the names Ōnamuchi, Ashihara no shikoo, Yachihoko, Ōkunitama, and Utsushikunitama no kami. Said to be either the child

or grandchild of Susanoo no mikoto, Ōkuninushi no kami was persecuted by his many brothers, and repeatedly exposed to danger, but always saved by the intervention of mysterious helpers. In one legend illustrating his kindness, he is depicted saving a rabbit whose fur was torn off by crocodiles. He received permission to marry Susanoo no mikoto's daughter Suseribime and was designated as the possessor of the utsushiyo or manifest world. (ノハ) There he punished evil spirits, developed the land, cured illnesses, distributed medicines, repaired damage caused by birds and insects. Then he presented the land to Ninigi no mikoto, who was sent from heaven by his grandmother Amaterasu Ōmikami. Ōkuninushi no kami is enshrined at Izumo Taisha\*. He is widely worshipped as a provider of happiness, especially marital happiness.

(出典 : Kokugakuin University Institute for Japanese Culture and Classics, *Basic Terms of Shinto*, 1958, 1985. 作問上の理由により、一部修正した。)

\*Ninigi no mikoto ニニギノミコト 記紀神話の神。アマテラスの子孫として高天原から下界の日向高千穂峰に降臨。

\*Izumo Taisha 出雲大社



\*青木繁《大穴牟知命》1905(明治38)年 石橋財団 アーティゾン美術館所蔵  
(真住貴子「美術と古事記」『現代思想』第39巻第6号 5月臨時増刊号 2011年より)

青木繁《大穴牟知命》  
1905年 油彩・カンヴァス 75.5×127.0cm 石橋財団アーティゾン美術館 蔵

問1

出雲神話を題材に描いた青木繁の非凡な才能について述べた下線部(イ)について、あなた自身の考えを 800 字以内で論じなさい。

問2

下線部(ロ)、(ハ)を日本語に訳しなさい。古事記の神々の名はカタカナ表記でかまわない。